



# 平成28年度 果樹情報 第5号

(平成28年5月20日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (5月前半：果樹研究所)

5月1～3半旬の平均気温は、1半旬が15.8℃で平年より0.8℃高く、2半旬が16.7℃で平年より1.0℃高く、3半旬が16.8℃で平年より1.4℃高く経過し、この期間の降水量は8.5mmで平年の21%でした。

## 2 土壌の水分状況 (5月16日現在)

土壌水分 (pF値：果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで2.2、40cmで2.1、深さ60cmで1.9であり、適湿状態にあります。

## 3 発育状況

### (1) もも

#### ア 新梢生長

満開後30日における「あかつき」の新梢長は平年比51%と短く、展葉数、葉色はいずれも平年比105%とほぼ平年並で、「ゆうぞら」も同様の傾向にあります。

#### イ 双胚果の発生

満開後30日における「あかつき」の双胚果発生率は4.8% (平年7.8%) と少ない状況ですが、「ゆうぞら」では27.8% (平年24.1%) とほぼ平年並となっています。

#### ウ 核障害の発生

満開後30日における「あかつき」の核障害発生は、核頂部の亀裂が39.6% (平年35.7%) 認められほぼ平年並ですが、昨年 (8.1%) よりは多い傾向にあります。

また、「あかつき」の核断裂が15.9% (平年13.9%) 確認されています。

#### エ 発育予測

DVRモデルによる「あかつき」の発育予測では、本年の硬核期開始は6月4日頃で平年より6日早い見込みです。

表1 ももの発育予測 (5月16日現在)

品 種	硬核開始日		
	本年予測	平年	平年差
あかつき	6月4日	6月10日	6日早い

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1986～2015年の平均。

### (2) ぶどうの発育予測

DVRモデルによる「巨峰」の開花予測では、今後の気温が平年並に推移した場合、開花が6月1日頃、満開は6月4日頃の見込みです。

表2 ぶどう「巨峰」の開花予測日 (5月16日現在)

発育ステージ	今後の気温経過と開花予測日				
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
開花始め	5月24日	6月6日	6月1日	5月30日	6月4日
満 開	5月28日	6月10日	6月4日	6月2日	6月8日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1988～2015年の平均。

#### 4 栽培上の留意点

##### (1) 凍霜害対策

果樹類の多くは幼果期を迎えています。引き続き気象予報に注意し、降霜の恐れがある場合は防霜対策を実施しましょう。なお、ぶどうやかきは展葉期に凍霜害を受けると、花器だけでなく新梢にも障害が発生する場合がありますので、十分注意しましょう。

##### (2) も も

この時期は新梢や果実の生育が旺盛になりますので、着果管理や土壌の水管理等を徹底し、新梢および果実の初期生育を促進しましょう。

##### ア 予備摘果

果実の初期肥大は平年に比べやや小さく推移しているため、摘らいや摘花を実施しなかった場合や摘らい程度が弱く着果数が多い園地では予備摘果を必ず実施しましょう。なお、品種により着果量が少ない場合は、仕上げ摘果から作業を行います。

##### イ 仕上げ摘果

果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施します。なお、本年の硬核期開始は6月4日頃（果樹研究所）と予想されるので、仕上げ摘果はこの頃までを目安に実施しましょう。

摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や今後の双胚果、核障害の発生状況を見ながら加減しましょう。

なお、果樹研究所内「あかつき」の満開後30日における核障害調査では、核頂部亀裂、核断裂を含む障害発生率が55.6%（平年36.4%）と多いので、摘果に当たっては自園地の状況を確認してから行いましょう。

図1に示したように核頂部に断裂などの重度の障害を生じた果実は、満開後45日頃になると果頂部の片側の肥大不良が目立ってくるので、果形に注意して仕上げ摘果を実施しましょう。

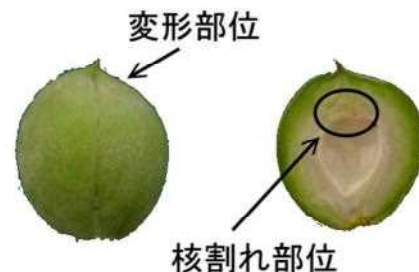


図1 核頂部の障害と果頂部の変形

##### ウ 樹勢回復対策

早めの摘果作業に心がけるとともに、必要な着果数まで速やかに摘果し、新梢の生育を促します。また、乾燥傾向にある園地では積極的にかん水を実施するなど、土壌水分の確保に努めましょう。

新梢伸長が劣り、葉色が薄いなど樹勢低下がみられる園では、早期の摘果により着果量を制限するとともに、5月中を目安に、速効性肥料による追肥（チッ素成分で2kg/10a程度）、または窒素成分を含む葉面散布用肥料による葉面散布を実施しましょう。

##### エ 新梢管理

5月下旬から6月中旬にかけては新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠内が混雑しやすくなります。主枝、亜主枝の基部、側枝の基部などから発生する徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し健全な樹体管理に心がけましょう。

なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか最小限とします。

##### (3) な し

予備摘果は満開後30日までに終わるようにしましょう。ただし、枝単位で生育にバラツキが見られるため、結実状況をよく確認しながら作業を進めるようにします。また、「幸水」の仕上げ摘果は、肥大不良果の除去を中心に行い、満開後50日頃までに終了しましょう。

予備摘果と同時に芽かきを実施し、主枝や亜主枝の背面枝はかき取りましょう。不定芽新梢が混み合っている場所は芽かきで2～3本に整理し、適度な間引きを実施します。予備枝は風による新梢折損の恐れがなくなったら先端新梢を一本に整理しましょう。

この時期に土壌が乾燥している場合は、樹勢低下やカルシウムの吸収不良による生理障害

の発生が懸念されるため、かん水により土壤水分を十分に確保しましょう。

平年より新梢伸長が不良で葉色が薄い場合には、早期摘果で着果量を制限するとともに、5月中を目安にチッ素成分を含む葉面散布用肥料による葉面散布を実施するなどして樹勢の回復を図りましょう。

#### (4) りんご

実止まりが確認後、予備摘果を開始し、満開後30日以内に終了するように努めましょう。原則として中心果を残すようにし、着果の多い樹や樹勢の弱い樹から作業を実施します。

結実が良好な園では、長果枝や葉の少ない果そう及び肥大不良果そうの果実は摘除し、着果負荷の軽減を図りましょう。

結実が不良の園地では、次年の花芽形成を促進するために、果実形質がはっきりした頃から予備摘果を実施し、形質の良い果実は着果間隔が近くても積極的に残すようにしましょう。

予備摘果と平行して、主枝や骨格枝の背面、切り口等の不定芽から発生している新梢をかき取りましょう。

#### (5) ぶどう

混み合っている新梢、勢いが極端に強く花振るいの危険性が高い新梢及び花穂を持たない弱い新梢は芽かきします。また、新梢が30～40cm程度伸びた頃から新梢誘引を行います。ただし、「あづましずく」では新梢が硬く基部から折れやすいので、無理に誘引せず時期をずらして行いましょう。

新梢誘引、花穂の整理、花穂整形は適期を逃さないよう計画的に実施しましょう。

土壤の乾燥が続くと、新梢の初期生育が劣り、新梢伸長と花穂発育のバランスが崩れて花振るいや単為結果等を誘発することが心配されますので、必要に応じてかん水を実施し、土壤水分の確保に努めましょう。

#### (6) おうとう

1花束状短果枝当たり3～4果（樹勢が適正な場合）を目安に早めの摘果を実施しましょう。なお、樹勢が強く新梢の生長が旺盛な側枝ではやや多めに、樹勢が弱い場合は少なめにし、葉数に応じた着果量とします。なお、「佐藤錦」の硬核開始は5月7日頃（満開後17日）と見込まれ、平年よりも6日程度早く推移しているため、摘果、雨よけ被覆、着色管理などの管理作業が遅れないよう計画的に実施しましょう。

#### (7) 共 通

現在、土壤水分状態は適湿ですが、降水量が少なく土壤の乾燥が続く場合は、以下の対策を実施しましょう。

##### ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度ですので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壤などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。

##### イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょ（草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

##### ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壤水分の保持に努めましょう。

### 5 病虫害防除上の留意点

#### (1) 病 害

##### ア りんご黒点病

りんご黒点病は落花直後から感染がみられ、特に落花10日後から30日後の期間に感染し

やすいため、この期間に降雨が多い場合は、散布間隔が10日以上あかないように注意して防除を実施しましょう。

#### イ ももせん孔細菌病

福島地域、伊達地域ともに春型枝病斑の発生は場割合が平年より高く、今後の風雨によっては発生が増加するおそれが高い状況にあるため、耕種的防除と薬剤防除を組み合わせ実施し、園内の菌密度を低く保つように心がける必要があります。春型枝病斑や罹病葉は伝染源となるため、園地をこまめに巡回して見つけしだいせん除し、適切に処分しましょう。新梢が伸長して葉数が増加すると、春型枝病斑の発見が困難となる場合がありますが(図2)、新梢及び新梢葉の生育不良や罹病葉の発生位置を発見の目安とし、病斑のせん除を徹底しましょう。また、予防散布が基本となるので、せん孔細菌病防除剤を必ず使用しましょう。



図2 発見が困難なももせん孔細菌病の春型枝病斑(果樹研究所5月12日撮影)

#### ウ もも灰星病

灰星病による花腐れから進展した枯れ枝を放置すると、他の核果類やモモの成熟期における果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。

#### エ なし黒星病

果そう基部病斑は見つけしだい除去し、適切に処分するとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

なお、防除に当たっては、5月中は7日間隔での散布を心掛け、10a当たり250リットル(スピードスプレーヤの場合)の散布量を遵守しましょう。

### (2) 虫 害

#### ア 主要チョウ目害虫

主要なチョウ目害虫の発生時期は平年より早く推移していると推測されます。

各害虫の越冬世代成虫の発生ピークは、モモハモグリガが4月15日(昨年は4月17日)、ナシヒメシンクイが4月20日(昨年は4月27日)でした。

#### イ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ越冬世代成虫の発生盛期は5月3半旬頃であったと推測され、リンゴコカクモンハマキの発生もこれに準ずると考えられます。

リンゴモンハマキ第1世代幼虫の防除適期は、今後の気温が平年並に推移した場合、5月6半旬頃になると推定されます。なお、複合交信かく乱剤をまだ設置していないほ場では早急に設置しましょう。

ウ モモハモグリガ

現在、越冬世代成虫の発生は終息したと考えられます。モモハモグリガ第2世代幼虫の防除適期は、今後の気温が平年並に推移した場合、6月1半旬頃になると推定されます。

エ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシの防除適期は5月5～6半旬頃になると見込まれるので、モモではふ化幼虫の分散に合わせて防除を行いましょう。

また、クワシロカイガラムシの防除適期はウメシロカイガラムシより7～10日程度遅いため、防除時期に注意しましょう。

オ カメムシ類

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山沿いの果樹園ではカメムシ類の飛来状況をよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を実施しましょう。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成28年5月15日現在）

今後の 気温予測	リンゴモンハマキ		モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	越冬世代 発生盛期	第1世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月14日	5月28日	5月28日	6月2日	6月13日	6月22日
平年並	5月14日	5月30日	5月29日	6月4日	6月18日	6月29日
2℃低い	5月15日	6月3日	6月3日	6月10日	6月28日	7月10日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 リンゴモンハマキ：3月1日、モモハモグリガ：4月15日

ナシヒメシンクイ：4月20日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧いただけます。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>